

多摩のくらし～歳時記～美しい日本の庭に「庭木」あり～



住まいの外観が無国籍の様相を示すようになった現在も、庭は和風が好まれるようです。和風の庭は観賞を主眼とし、多分に禅や茶道といった精神文化をうかがわせるゆとりがあります。その狭い空間の中に夢を託すのでしょうか。

造園学上の難しい定義はさておき、日本の庭は自然をありのままに取り入れ、空間を活かすことを重んじ、樹木を中心にかたちづけられます。庭の中心になる木を「主木」といい、大きさではなく、主役としての風格を備えていることが第一の条件とされます。ある程度の年を経て、樹種も幹肌や枝ぶりなどが古色を現すものが良いとされ、クロマツ、アカマツ、マキ、イチイ、ウメ、サルスベリなどがよく利用されます。しかし、調和も大切で、庭の広さや建物との兼ね合いに加え、主役ばかりが目立ちすぎぬよう「副木」の存在がとても重要となり、添え木として、主木のそばに植えられます。しかしこれだけでは完全な安定感は得られないため、均衡を計る上でもう一本「対の木」が用いられるとよいそうです。そうしてできあがるのが不等辺三角形の構成であり、

これが日本における破調の美しさを持つ庭の原型であるといえます。互いにアンバランスであることでストーリー性が生まれ、奥行きも出るわけです。

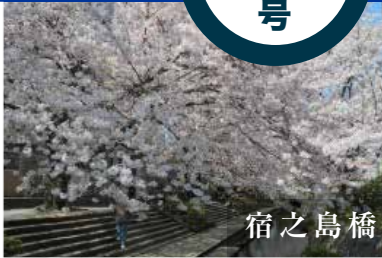
また、「吉祥木」を植えておくことと幸運を呼び、「忌み木」は不幸を招く木とされていますが、陰陽道の影響という説が一般的です。宗教上の儀式に用いられることで遠ざけられてきた木もありますが、さほど気にする必要はないともいわれます。エンジュ（槐）は、立身出世の望みがかなう吉樹で、中国ではほとんどの家庭の玄関前に植えられ、花や果実は高血圧の予防や止血に効果ありともいわれます。モモは、中国では古くから邪鬼を払う霊力を備えた木とされ、春節には日本の門松のように、モモの切り枝とキンカンを門先に飾ります。日本で正月にマツを飾る風習が始まったのは平安時代。マツは神が宿る木と考えられ、人々はその枝を戸口に飾って歳神を迎えました。冬の寒さに耐え、一年を通じて美しく青葉をたたえるため、節操の象徴ともされます。そんな由来を知らなくても枯れ地に根をおろし堂々と枝を伸ばすマツには、人の襟を正す威厳が感じられます。（川口キン）

私たちのまちづくり

多摩区まちづくり協議会 NEWS

2015年
（平成27年）3月

47号



たま今昔

区制が敷かれてから40年以上を経た多摩区の昔の姿を探ります

その12 豆汽車・豆電車・モノレール



大正出版社「小田急車両と駅の60年」より転載 昭和45年5月
平成27年1月
ダイエー屋上より撮影

小田急線の向ヶ丘遊園駅から藤子・F・不二雄ミュージアムに向かう二ヶ領用水横の遊歩道は、かつてモノレールが走っていた跡であることをご存知の方は多いと思います。そのモノレールができる前は、「豆汽車」が走っていました。1927（昭和2）年4月1日、新宿～小田原間を一気に開通した小田原急行鉄道（株）（現・小田急電鉄（株））が、同時に向ヶ丘遊園をオープンし、遊園地向かうお客さまのために走らせたものです。ガソリン動力による小さな機関車が、数両の客車を牽引していま



◀ 園内を走る豆電車（提供：小田急電鉄株式会社）
した。第二次世界大戦中遊園地は休園し、戦後に再開したときからは「豆電車」と呼ばれるようになりました。機関車が客車を牽引する形は同じでしたが、機関車がバッテリーで動く「電車」に代わったからです。その後府中県道の

バイパス工事に伴い、立体交差にしなければならなくなり、コンクリートの梁上を走る当時最先端だったモノレールにとって代わりました。羽田空港のモノレール開業より3年も早い1966（昭和41）年のことです。順調に走り続けていたモノレールも平成に入るところから老朽化が進みました。設備や車両の更新なども検討されましたが、向ヶ丘遊園の入場者も減り続けていたこともあり、2001（平成13）年に廃止されました。向ヶ丘遊園も翌年には閉園となりました。今その跡地は、かつてのモノレールの下というだけでなく、その昔は電車、さらにその前は汽車が走っていたことを思い出していただくと良いでしょう。 [文：児井正臣]



向ヶ丘遊園（提供：小田急電鉄株式会社）▶

多摩の風景 多摩区の桜、オンパレード!

（文：河崎 写真：藤田）

今回は豊かな自然と水がある街・多摩区の桜の名所をご紹介します。まずは二ヶ領用水に沿って歩いてみます。宿河原堰取水口、宿河原橋、宿之島橋（川崎市緑化センター）、東名高速下へと続く全長2km・400本以上の桜並木は、今や関東でも知られた桜のスポットです。そして稲田公園に続き、上河原堰から始まるもうひとつの二ヶ領用水は、草堰、紺屋橋、台和橋、徒橋（津久井道近く）あたりが桜のビューポイントです。

さらに区内の桜の見どころは生田中学校、三田第三公園、須賀神社（夜桜も必見）、南生田3丁目交差点、生田浄水場配水池、菅さくら公園、よみうりランド、生田緑地枳形城跡などがあります。参考までに二ヶ領用水（宿河原）の桜まつりは4月5日（日）です。この春は、多摩区の桜の名所を歩いてみて大いに楽しんでください。



編集後記

また、春がめぐってまいりました。多摩区では各所で桜が咲き誇りましょう。みなさま、ご家族での外出を楽しめますよう。編集委員一同、来期もみなさまのお役に立ちますよう、情報発信に努めます。（藤田）

多摩区まちづくり協議会へのご意見、ご質問、プロジェクトへの参加申し込みはこちらへお願いします。

【事務局】〒214-8570
多摩区役所地域振興課まちづくり推進係
電話 935-3148 FAX 935-3391
メール 71tisin@city.kawasaki.jp



多摩区まちづくり協議会 まちづくり TOPICS

多摩区まちづくり協議会が内外で行っているさまざまな活動の紹介や、身近なまちの情報などを、トピックス仕立てでお届けします！

[まち協ホームページ]
<http://tamaku-machikyo.com/>

多摩川のアユ釣り

記事 井上

アユ釣りは、毎年6月1日（日の出）から解禁になります。多摩川も釣り人に人気があります。アユは清流の水辺を好んで棲むそうですから、多摩川の水も綺麗になったことが分かります。多摩川のアユは身が締まっていて、焼いて食べるのが一番ですが、煮ても美味しいそうです。地元の料理店では地産の食材にしています。東名高速の下あたりがよく釣れるそうで、10月中ごろまで楽しめます。あなたもデビューしてみませんか。川岸にずらり並ぶアユの釣り人



旧津久井道

記事 鈴木

「旧津久井道」は江戸時代、炭や柿を江戸城下へ運ぶ道として機能しておりました。また、製造が盛んで、下駄作り、干菓子作り、提灯作りなど、種類豊富な「職人の町」でした。現在は区画整理事業が進み、商店街の様子は変わりつつありますが、新しくお店を始める人も多く、今後さらに活気ある街になっていくのではないのでしょうか。



旧津久井道に今も残る「柏屋」

登戸の劇団「辻シアター」

記事 田代

1982（昭和57）年、登戸に「人情喜劇芝居のオリジナル作品を無料で提供する」劇団を、俳優・辻三太郎さんが立ち上げました。最近の活動では、3月に市民館で開催された「たま学びのフェア」にて、多摩区の人たちと芝居を作ることで、地域の活性化にな



辻シアターの劇団員の練習風景

ればと、芝居に興味がある子どもからシニアの方まで、団員の募集をしました。芝居の面白さを伝えるため、演劇をインターネットの動画サイトなどに投稿してくれる応援者も募集中！とのことでした。

赤ちゃんのお誕生、おめでとうございます！

記事 古川

「川崎市のこんには赤ちゃん訪問」は、子育て家庭の孤立を防ぎ、安心して子育てができるように、生後4ヶ月までの赤ちゃんのいる家庭を全戸（新生児訪問を除く）訪問する事業です。「こんには赤ちゃん訪問員養成研修」を受けて各区に登録された、市長委嘱のボランティアが訪問します。市や区が行っている子育て支援情報のお届け、地域の子育てサロンなどを紹介、子育て経験のアドバイスなどを通して、ママさんと赤ちゃんの子育てを見守り応援する地域づくりを目指しています。



赤ちゃん家庭を訪問します

多摩区のオススメイベント情報（4月～6月）

4/4（土）	多摩川桜のコンサート
4/5（日）	桜まつり（二ヶ領用水宿河原堀）
4月中旬 GW	鯉のぼり（五反田川）
5/20（水）	たまアトリウムコンサート
5月中旬 6月初旬	生田緑地ばら苑一般開放
6/1（月）	アユ釣り解禁
6/21（日）	長尾の里あじさいまつり

※ イベントの内容は変更になる場合があります。

多摩区まちづくり協議会 活動発表会

多摩区のみちを元気にする まちづくりカッドウを紹介！



広げようみんなの力！多摩のまちづくり

平成26年度の「まちカツ!」を、2月11日、多摩区総合庁舎11階会議室で開催しました。これまでに最大の参加者があり、会場は終始賑やかな雰囲気がありました。以降は「まちカツ!」についてご報告をいたします。



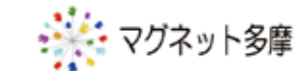
本多 正典会長

多摩区まちづくり協議会の第4期前半活動報告

第4期は、公募委員が増え（31人）、会員約60人の約半数が女性および60歳以下という構成で、ミッション（① まちの課題抽出とその解決 ② 中間支援的機能の充実）の実現に向けて活動中です。

【ミッション① まちの課題抽出とその解決】

ミッション①の実現に向けた主な担い手はプロジェクトです。昨年8月に「マグネット多摩」、11月には「たまむすび～あそび場支援プラットフォーム～」が立ち上がりました。3期から継続の「多摩エコスタイル」とあわせ、現在3プロジェクトが活動をしています。（P4、5で紹介）。プロジェクト活動の他に、会員のスキルアップワークショップや全体研修も行いました。



【ミッション② 中間支援的機能の充実】

ミッション②は、「まちカツ!」の一環であるポスター展やポスターセッション、学びの場を提供する「多摩★まち大学」、活動発表と交流の場を提供する「多摩★まち Cafe」、さらには各プロジェクトでも市民活動団体の皆さまを応援する活動を取り入れ、中間支援的機能の拡充を図っています。主な活動を次に示します。



多摩★まちカフェ 活動

団体の情報発信と区民の皆さまを含めた交流の場として、夏休みに子どもたちも参加した歴史カフェを開きました。また、この春休みには折り紙を使って世代間交流する「カフェde折り紙」を開きました。



他都市視察研修

コミュニティ再生術と銘打って、市能工商、自治会加入率100%、孤独死ゼロという立川市大山自治会と新しい都市型農園（貸農園、交流広場、ポニー乗馬他）のくにたちはたけんぽを訪問しました。自治会関係者など41人が参加者しました。



多摩★まち大学

団体向け「市民活動のための集客術」、一般向け「楽しく始める地域活動のコツ」、地讃人による「40代からはじめる地域活動のススメ」の講座を開きました。



広報誌「私たちのまちづくり」

年4回発行しました。手に取っていただけの広報誌をめざし、紙面の構成を工夫し、魅力的な風景写真など委員がレポートとなって取材を通して生の情報を発信するように努力をしました。



第4期後半のまちづくり協議会の活動に向けて

第4期後半の活動は、まち協の独自性、存在感のアップに結び付くような活動として、「プロジェクトの活性化」と「中間支援的活動の拡大」を考えています。

前者については「①若いパワー／女性パワーを活かした新しい活動に挑戦」「②地域に密着した課題の解決に向けた活動」「③色々な世代の地域デビューと外あそび支援活動」。

後者については「①広報誌やホームページによる活動団体の情報発信の支援強化」「②多摩★まち大学、多摩★まちカフェの充実」などを進めていきます。



4期後半も精力的に活動します



多摩エコスタイルの第4期前半活動報告

まち協



区民祭に精力的に参加しています



ごみ分別ゲームに子どももチャレンジ!

多摩区エコスタイルプロジェクトについて

多摩エコスタイル（以下、「エコスタ」）は、多摩区にエコなライフスタイルを広め、子どもたちにより良い環境を引き継ぐことを目標として活動しています。区民の皆さまにもっとエコに対する意識を持ってもらいたいと思って、区内のイベントに参加したり講座を開催したりしています。

区民祭での取り組み「1日1エコ運動」

区民祭には毎年参加して、「1日1エコ運動」を提唱しています。これは皆さまが取り組んでいるエコを教えてもらうもので、他の方とも共有し、良いことはマネしよう!の精神で、誰でも参加できる形でエコライフに対する意識を向上する効果があると思います、実施しています。また、「ごみ分別ゲーム」もイベントなどで行っています。「混ぜればゴミ、分ければ資源」です。皆さまも正しい分別を行うようお願いします。



恒例の自主企画講座

自主企画講座としては、「ゴーヤの育て方講習会」を行いました。ゴーヤで緑のカーテンを作ると、エアコンばかりに頼らずに夏を過ごすことができます。「停電しないから電気は足りている」のではなく、電気の9割を火力発電で作っている今だからこそ、節電にみんなで取り組みましょう。「エコショッピング・クッキング」講座も2回行いました。毎日する買物や料理、後片付けがエコになれば大きい効果があります。自分で育てたゴーヤでエコクッキング!夏を元気に乗り越えられそうです。

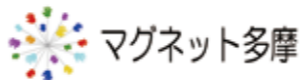
区内商店街と連携した新たな取り組み

このような普及活動を続けてきたエコスタですが、今年度新たに、商店街と連携して、まちの活性化&エコ活動推進の取り組みを始めました。商店街では意外とエコ活動に取り組んでいる店が多いことをアンケート調査で知りました。もっとエコを推進するには、お客さん（まちの皆さま）に協力してもらうことが必要で、どうしたらもっと参加してもらえるか、空き地を利用して楽しい活動ができないかなど考えています。

今年度は新たなメンバーも活動に参加してくれて、新しい発想や力を感じながら活動してきました。皆さまも一緒に活動しませんか?!



山下 博子代表



マグネット多摩の第4期前半活動報告

まち協



葛生 茂代表

昨年8月13日、多摩区まちづくり協議会の新プロジェクトとして「マグネット多摩」が発足しました。

プロジェクトでは、区内で活動する市民活動団体の基本情報、イベント開催チラシ等をホームページ上に掲載し、利用する区民の皆さまがパソコンやスマートフォンでホームページにアクセスすることにより、いつでもどこでも団体のイベント情報等を取得できる「チラシギャラリー」サイトの作成及び公開に向け活動を始めました。

チラシギャラリーサイトの機能及び利用にあたっての利用規約等の検討作業を重ねてまいり、昨年12月26日、サイトを公開しました。現在37の団体(チラシ約90枚掲載)が利用登録し、また多摩区役所及び関連公益団体の利用も始まりました。今後とも、より多くの団体の皆さまの参加、及び区民の皆さまのご利用をお待ちしております。

併せて、より使いやすいチラシギャラリーサイトを目指し、皆さまからのご意見・ご質問も募集してまいります。

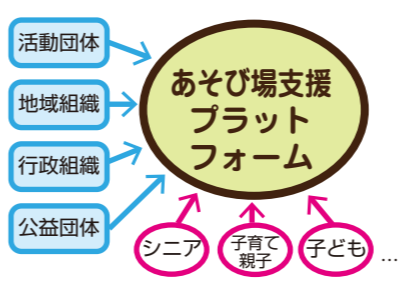
チラシギャラリーを紹介するチラシがあります



たまむすび～あそび場支援プラットフォーム～の第4期前半活動報告



田代 高是代表 平成26年11月、「たまむすび～あそび場支援プラットフォーム～」プロジェクトが誕生しました。子どもたちの外あそび支援、シニアの地域デビュー支援、世代間交流を区内に広げたいと、子育て中のお母さんやシニア



など多世代の人たちが集まり、約半年にわたって話し合いました。この話し合いの結果がプロジェクトの誕生につながりました。このプロジェクトの活動イメージは左図の通りです。「たまむすび」の名称は、活動団体をはじめ色々な組織や子どもからシニアが結び合い、目標に向かって一緒に考えるプラットフォームをつくらうという意味を込めています。

主な活動として、3つあります。1つ目は、関連するさまざまな組織との連携です。

誰もが遊びについていっしょに考え取り組むことができるプラットフォーム その一つとして昨年12月に多摩区役所こども支援室と「コラボ検討会」(情報交換の場)を持ち、このような場の重要性を実感しました。2つ目は、子どもやシニアを

取り巻く環境や状況調査です。そして3つ目は、実践です。今年度は、中野島こども文化センターの協力を得て、「焼き芋交流会」を行いました。焼き芋の他に、昔遊び、子ども体操、読み聞かせ、火起こし体験などに多くのシニアから支援をいただきました。老若男女約150人が参加しました。普段子どもたちができないことを体験し、それをシニアが手助けをし、見守るというプロジェクトが掲げる狙いの一つを実施できました。

- ＜たまむすびが目指すもの＞
- 活動団体とのネットワーク(あそび場支援プラットフォーム)形成
 - ゆとりある活動(マンパワー不足の解消/経費節減/子どもも大人も楽しめる/活動の重複解消)
 - 地域デビューの手助け ●人材育成とバンク
 - 空地、休耕地など空間の活用等



焼き芋交流会は大盛況!



エコクッキングでゴーヤチャンプルーとゴーヤつくだ煮を作りました

講演会 [多摩川を鮎が遡上する清流に]

82歳とは思えない力強く張りのある声は、さすが漁業という厳しい男の世界に60年もの間携わって来られた方だなと感じました。多摩川の近くに住んでいるのに初めて聞くお話がたくさんあり、飽きることのない楽しいひと時でした。例えば、多摩川は急流で暴れ川だと呼ばれていたこと。60~70%の水が再処理されたもので、水温も20℃と高いこと。アユの産卵は昼ではなく、夕方から夜に行われること。多摩川を遡上するアユの季節は3月で、その大きさは5~7cm。昨年は約800万匹が帰ってきたこと。一匹のアユが産む卵は約3万個で、無事に大人になって再び多摩川に戻って来るのは10%程度だということ。多摩川には約30種類の魚が住んでいることなど。もっともっと続きを聞きたいと思えるほど興味深い内容でした。時間があればさらに深いお話も聞けるのではないかと、そんな貴重なひと時でした。(河崎)

川崎河川漁業協同組合
井口文夫組合長



ポスターセッション (区内活動団体の発表の場)

過去最大数の来場者を過去最大数 26 団体でお迎え

新規6団体が参加し、過去最大規模の26団体が参加したポスターセッション。各団体とも2分間のプレゼンテーションと9分間の交流タイムの時間制限を守りつつ、こちらも過去最大数の来場者(145名/対前年:50名増)の方々との活発なやり取りで大いに盛り上がりました。

平成 26 年度「ベストプレゼンたま賞」

昨年から設置された賞で、来場者が印象に残った団体のプレゼンテーションに投票する「ベストプレゼンたま賞」。第二回目の今年は、子どもにとっての「遊び」の大切さを元気にアピールした「多摩区でプレーパークをやっちゃおう会」に豪華な副賞とともに贈られました。(高瀬)



「まちカツ!」ポスター展

「まちカツ!」の会期前後、2月9日(月)から2月17日(火)まで、多摩区役所1階アトリウムにて各団体の活動発表ポスター展示を実施しました。区役所に入ってすぐの場所に並ぶ、活動団体のポスター群は圧巻!区内でのさまざまな活動に興味をお持ちの多くの方々にご覧いただく機会となりました。

年を追うごとに注目度が高くなっているポスター展、活動をPRしたい団体の皆さま、来年は是非ポスターを展示してください!(加藤)



ポスターセッション&ポスター展示に参加した活動団体

多摩区でプレーパークをやっちゃおう会 (ベストプレゼンたま賞受賞)



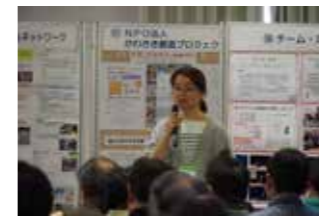
「遊びで育てよう 人とまち」をテーマに多摩区でプレーパークを実現することを目標に平成15年に設立、さらに平成25年度には「磨けば光る多摩事業」に選定されました。中野島中央公園(第1月曜/第3木曜)を中心に、多摩区内数か所(堰、三田・生田、宿河原等)にてプレーパークを実施、子どもたちに思いっきり遊べる場を提供しています。

「かわさき市民しきん」設立準備会

地域の暮らしの中の「ほっとけない」ことを、寄付で地域活動を応援し、コミュニティを豊かに快適にしていくことを目的に、4月中の財団の設立をめざしています。

設立資金500万円を目標に、設立までは「設立寄付者」として、みなさまの参加をお待ちしています。地域活動が寄付を通じて自分の活動と考えられますように!

TEL:044-872-9325
Mail:kawasaki-shiminshikin@gmail.com



クローバーの会

「お産からはじまる ココロとカラダに こちよ暮らし」をスローガンに活動するお母さんの団体です。川崎市は妊婦搬送時間が全国ワーストワンで、市内の産婦人科病院の数も全国平均を大きく下回っているそうです。出産に不安を抱く女性も多いことから、自分たちでできることは積極的に行うということで、たとえば靴下を1枚余分に履くとか手作りのご飯を食べるとか、身近なことについて情報交換をする場(サロン)を開いています。出産が不安な方だけでなく、家族の健康が気になる方にも是非参加していただきたいと思います。



出典団体一覧

- 公益財団法人 かわさき市民活動センター
- インターネット川崎ガイド
- 生田地区すこやか活動推進委員会
- チーム・たま
- 登戸研究所保存の会
- 福島の子どもたちとともに「川崎市民の会」
- 日向山うるわし会
- 多摩区民生委員児童委員協議会
- 多摩区地域教育会議
- NPO法人 川崎フューチャー・ネットワーク
- 長尾台コミュニティ交通導入推進協議会
- NPO法人 まめな人生
- 向ヶ丘遊園の緑を守り、市民いこいの場を求めると
- NPO法人 ままとんきつず
- 稲田郷土史会
- からふる!
- KSソーシャルネットワーク
- 地域通貨たま運営委員会
- NPO法人 かわさき創造プロジェクト
- NPO法人 ぐらす・かわさき
- かわさき市民しきん設立準備会
- 日本民家園 炉端の会
- 多摩区でプレーパークをやっちゃおう会
- NPO法人 多摩川エコミュージアム
- クローバーの会
- たま文化財ボランティアの会

(順不同)